

横浜国立大学大学院

卓越大学院プログラム

パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)育成プログラム

2020年度13大学共通プログラム要項  
(別冊 研究科要項)

大学院理工学府

化学・生命系理工学専攻

数物・電子情報系理工学府専攻

## 目 次

I. PEP 育成プログラムの概要と特徴	1
1. 本プログラムの概要	
2. 本コースの特徴	
II. PEP 育成プログラム認定・修了要件等	2
III. PEP 育成プログラム履修要項	3
1. PEP 育成プログラム修了必要単位数	
2. 飛び級制度・早期修了制度	
3. 学科目配当表	
4. 履修の特例	
5. 先取り履修について	
IV. 卓越 RA 費	1 2
1. 卓越 RA 制度	
2. 卓越 RA 費の支給	
V. 早稲田大学での学籍番号	1 3
VI. その他	1 3

# I. PEP 育成プログラムの概要と特徴

## 1. 本プログラムの概要

本「パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)育成プログラム」は、連携13大学（北海道大学、東北大学、福井大学、山梨大学、首都大学東京、横浜国立大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、徳島大学、九州大学、琉球大学、早稲田大学）による **5年一貫の博士人材育成プログラム**である。

本プログラムの目的は、Society5.0のコアである「エネルギーバリューチェーンの最適化」による新産業創出を様々なセクターで主導する「知のプロフェッショナル」を輩出することである。

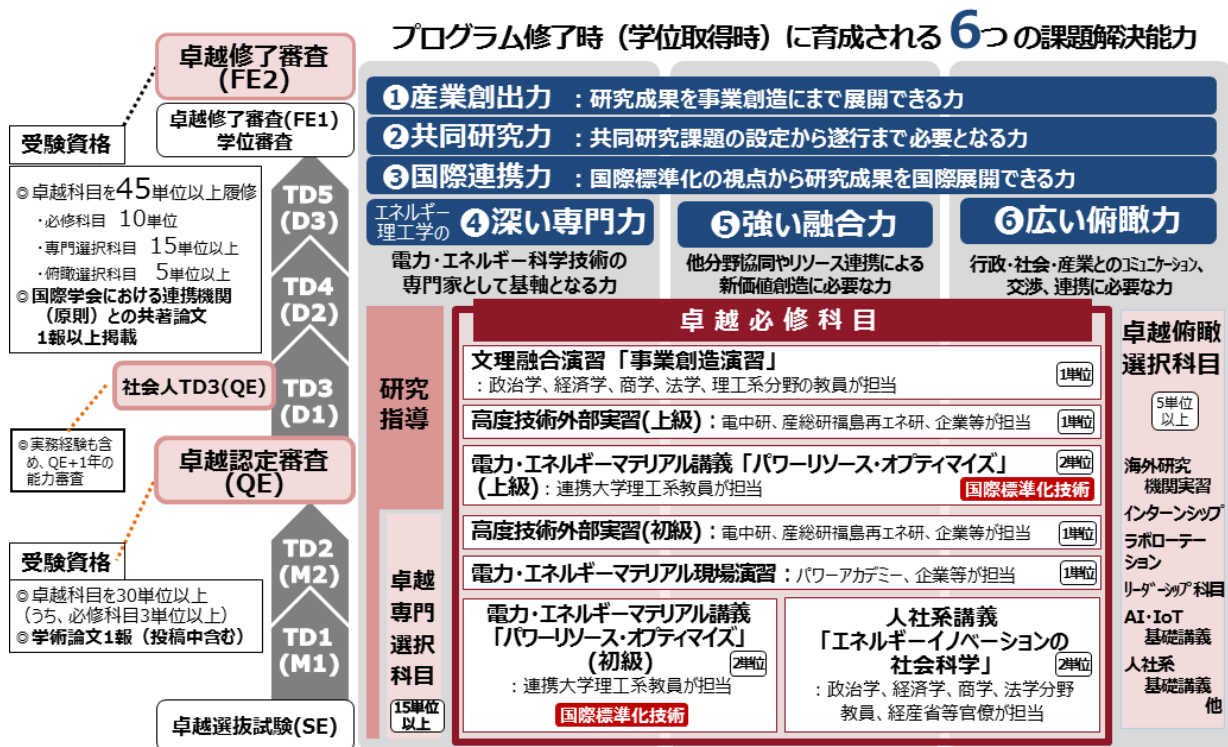
エネルギーマテリアル分野から電力システム分野までを含む教育を一気通貫の単一課程とし、これによる技術イノベーションと、制度設計や従来にない付加価値をビジネスとして結実させる社会的イノベーションとを両輪として目指す新たな学理「パワーリソースオプティマイズ」の体系的教育研究プログラムを提供する。

国内13大学が連携して第一線の教員を結集し、連携機関との産学協働と海外大学との連携により、博士課程前期および博士課程後期合わせて5年一貫の世界に通用する質の保証された学位プログラムであり、この学位取得のプログラムを「PEP卓越大学院プログラム」と呼ぶ。

学生は自らの専攻の履修・修了に加え、本プログラム修了要件（5年間で45単位、他）を修得することにより「PEP卓越大学院プログラム修了認定証」が授与される。本プログラム授業科目は、卓越必修科目（7科目10単位）が早稲田大学に設置され、それ以外の卓越専門選択科目等は自らの所属する大学の研究科・専攻に設置される。早稲田大学に設置される卓越必修科目の履修にあたっては、オンデマンド形式、集中合宿形式、学外連携先実習の形態で実施し、連携12大学学生にも配慮した設計となっている。

なお、本プログラム修了は、自らの大学の研究科・専攻の履修・修了が大前提となるため、自らの専攻の履修・修了について、自らの所属する大学の研究科・専攻の要件等を必ず確認すること。

本プログラムの概要図を以下に示す。



## 2. 本プログラムの特色

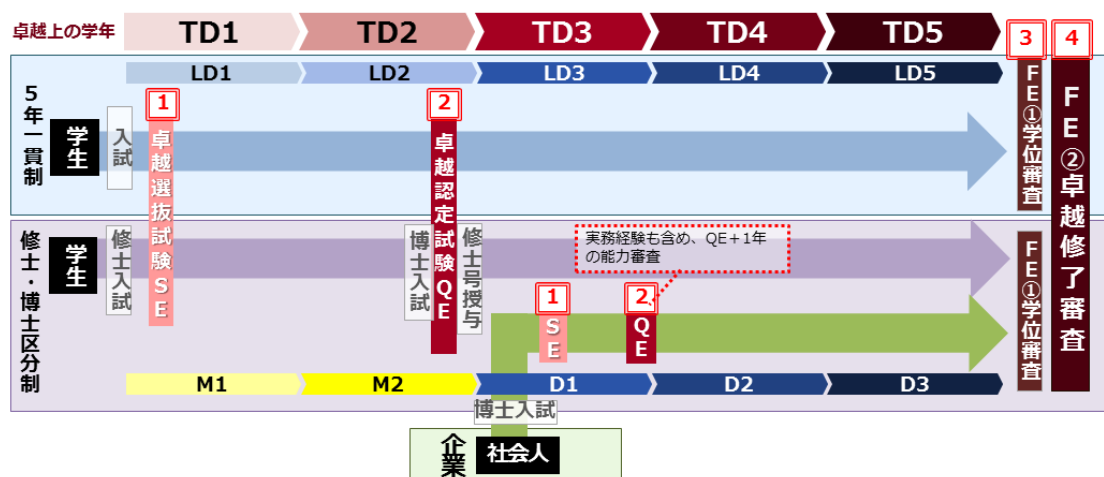
- ▶ 5年一貫制のカリキュラム
- ▶ 連携機関や企業等との共同研究への従事により、RA 費などを各大学で支援
- ▶ 明確な評価基準に基づく厳格な Qualifying Examination (以下 QE)、学位審査による成績評価を実施し、毎年約 20 名の「パワー・エネルギー・プロフェッショナル」を輩出
- ▶ 主指導教員と連携大学を含む副指導教員、学外のコンサルティング教員からなるアドバイザーチームの指導により質を担保
- ▶ 本コース生の学年は TD1、TD2～TD5 と表記。TD1 が博士課程前期 1 年、TD3 が博士課程後期 1 年に相当
- ▶ 早稲田大学学生以外の本プログラム生は、早稲田大学では大学院交流学生の学籍にて履修

## II. PEP 育成プログラム認定・修了要件等

本 PEP 育成プログラムは、既存の博士課程前期 2 年間と博士課程後期 3 年間を合わせた 5 年間の一貫教育を前提として実施する。以下ではその各学年を TD1 ～ TD5 と呼ぶ。

学年進行スケジュールのイメージ図を以下に示す。

### ◆スケジュール



本プログラムにおける「卓越認定審査 (QE)」の進級要件の審査および「卓越修了審査 (FE)」の修了要件の審査は、PEP 卓越大学院連携協議会の統括の下で、以下のとおり行う。

	標準想定時期	受験資格	審査項目	審査員等
QE 一般	TD2 (12月以降)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30 単位以上履修 (卓越必修科目 3 単位以上、専門選択科目 15 単位以上、任意 (専門選択科目または俯瞰選択科目) 12 単位以上)</li> <li>・学術論文 (投稿中含む) 1 報</li> </ul>	研究背景・成果、TD3 以降の研究計画プレゼンテーション	正副指導教員、学生の所属する大学のプログラム担当者から 1 名以上、人社系教員などが参画
QE 社会人編入者対象	TD3 (12月以降)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 単位以上履修 (卓越必修科目 2 単位以上、専門選択科目または俯瞰選択科目 1 単位以上)</li> <li>・学術論文 (投稿中含む) 1 報または学術論文投稿計画書</li> </ul>	研究背景・成果、TD4 以降の研究計画プレゼンテーション	正副指導教員、コンサルティング教員、学生の所属する大学のプログラム担当者・実施者から 1 名以上、人社系教員などが参画

FE	TD5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45 単位以上履修（卓越必修科目 10 単位、専門選択科目 15 単位以上、俯瞰選択科目 5 単位以上）</li> <li>・国際学会等での原則、連携機関との共著論文 1 報以上</li> </ul>	<p>&lt;FE1&gt; 学位審査（学位論文審査および口頭試問）</p> <p>&lt;FE2&gt; 事業性・社会的意義に関するプレゼンテーション</p>	<p>学位論文内に、研究の事業性や社会変革への貢献など文理融合領域に係る考察等を記載</p> <p>&lt;FE1&gt;では、副査に連携大学教員が参画</p> <p>&lt;FE2&gt;には、人社系教員、コンサルティング教員なども参画</p>
----	-----	--	--	---

※QE は 1 回に限り再審査を可とする。

※社会人（修士号取得済）については、QE と同等の基準により行うプレゼンテーション・口頭試問等により、TD3 からの進入を可とする。なお、社会人編入者については、TD4 進級前に QE 審査を行い、進捗状況および能力を確認する。

※FE2 に合格した学生には、連携 13 大学連名の「プログラム修了証」を別途授与する。

### III. PEP 育成プログラム履修要項

#### 1. PEP 育成プログラム修了必要単位数

合計 45 単位とする。本属研究科・専攻の修了生としての教養を修得しつつ、本 PEP 育成プログラム履修の条件を満たすようにカリキュラムを編成している。そのために、本属の各大学研究科・専攻ごとに卓越専門選択科目は異なる。

##### (1) 各大学共通

本プログラム修了要件は、卓越科目合計 45 単位以上（卓越必修科目 10 単位、卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上の履修および国際会議等での連携機関との共著論文一報以上ならびに卓越修了審査 (FE1、FE2) の合格とする。

また、修得した科目が、各本属研究科・専攻の修了必要単位数および本プログラム修了必要単位数の双方にカウントできる科目である場合、双方の修了要件に有効とする。

##### (2) 本属が横浜国立大学であるプログラム生

早稲田大学において早稲田大学に設置された卓越必修科目 10 単位を履修し、本プログラム修了に必要な残りの 35 単位以上（卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上）は、本学大学院理工学府に設置された科目群より履修すること。

また、本プログラム修了に必要な単位とは別に、TD2 修了時まで、本学大学院理工学府が定める博士課程前期修了に必要な単位数を所定の履修方法で満たすこと。同様に TD3 から TD5 までに、本学大学院理工学府が定める博士課程後期修了に必要な単位数を満たすこと。各課程における科目履修方法については、横浜国立大学大学院理工学府履修案内の記載に従い、指導教員に確認をすること。

#### 2. 飛び級制度・早期修了制度

本プログラムに進入した修士 1 年目 (TD1) において、本学大学院理工学府が定める修了に必要な要件を満たし、本プログラムで定めた TD1・TD2 配当の卓越科目 36 単位以上（卓越必修科目 6 単位以上、卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上）を修得し、修士論文研究で優れた成績を上げた者について、指導教員の推薦にもとづき、卓越大学院プログラム連携協議会が認めた場合に限り、本プログラムでの 2 年目に博士後期課程 (TD3) に進学することができる。

本プログラムでの 4 年目終了までにプログラム所定の必要単位を全て修得し、博士学位論文研究で優れた成績を上げた者は、指導教員の推薦にもとづき、卓越大学院プログラム連携協議会が認めた場合に限り、博士学位論文審査・卓越修了審査を受け、それぞれに合格することで本プログラムを最短で 4 年間で修了することができる。

### 3. 学科目配当表

科目情報は各専攻の事情により変更となる可能性がある。最新の情報は、掲示や学生情報システム、メール等で随時周知する。担当教員や授業形態、実施時期等はシラバスや時間割表で確認すること。

#### (1) 卓越必修科目 (早稲田大学設置科目、連携 13 大学共通)

横浜国立大学学生については、本 7 科目 10 単位は博士課程前期および博士課程後期の修了に必要な単位には算入されない。

ただし、単位修得した課程の成績には反映されるものとする。(博士課程前期で単位修得した場合は博士課程前期の成績に、博士課程後期で単位修得した場合は博士課程後期の成績に反映される。)

科目名	開講学期	単位数	配当学年
パワーリソースオプティマイズ講義 (初級)	集中	2	TD1
エネルギー・イノベーションの社会科学	オンデマンド	2	TD1
電力・エネルギーマテリアル現場演習	集中	1	TD1 以上
高度技術外部実習 (初級) 電力クラス または エネルギーマテリアルクラス	集中	1	TD1 以上
事業創造演習	集中	1	TD1 以上
パワーリソースオプティマイズ講義 (上級)	集中	2	TD3 以上
高度技術外部実習 (上級) 電力クラス または エネルギーマテリアルクラス	集中	1	TD3 以上

※本プログラム進入時に TD2 以上の学生は、「配当学年 TD1」の科目から優先して履修すること。

※初級・上級の区分がある科目は初級から履修すること。

※「高度技術外部実習」は「電力クラス」または「エネルギーマテリアルクラス」に分かれるため、選抜試験 (SE) で選択した専門分野を履修すること。

**(2) 卓越専門選択科目 (横浜国立大学大学院理工学府開講科目)****< I. 化学・生命系理工学専攻 (エネルギー・マテリアル系) >**

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	PSD TED	PED
NB10031	触媒化学	2	TD1 以上	○	○
NB10044	高分子設計学	2	TD1 以上	○	○
NB10081	光物理化学	2	TD1 以上	○	
NB10124	電子移動の化学	2	TD1 以上	○	
NB10134	電気化学特論	2	TD1 以上	○	
NB10141	触媒反応工学	2	TD1 以上	○	
NB10151	有機電気化学特論	2	TD1 以上	○	
NB10184	セラミックス材料工学	2	TD1 以上	○	
NB10194	粉体材料プロセス工学	2	TD1 以上	○	
NB10254	固体化学	2	TD1 以上	○	○
NB20011	プロセス計測学	2	TD1 以上	○	○
NB20024	伝熱工学特論	2	TD1 以上	○	○
NB20031	移動現象特論	2	TD1 以上	○	○
NB20043	先端燃料電池技術	2	TD1 以上	○	
NB20051	エネルギー化学概論	2	TD1 以上	○	○
NB20064	エネルギー変換材料	2	TD1 以上	○	○
NB20084	力学機能材料学	2	TD1 以上	○	○
NB20104	環境分離工学	2	TD1 以上	○	○
NB20114	エネルギーバリューチェーンシステム概論	2	TD1 以上	○	○
NB20124	燃料電池工学	2	TD1 以上	○	○
NB20131	セラミックスエネルギー工学	2	TD1 以上	○	○
NB20284	ミキシング化学工学	2	TD1 以上		○
NB20151	リスク分析論	2	TD1 以上	○	
NB20181	素材生産工学	2	TD1 以上	○	○
NB20221	環境物理化学	2	TD1 以上	○	○
NB20254	機能性材料学	2	TD1 以上	○	○
NB25101	プロセス工学解析実習 S	4	TD1 以上		○
NB25204	プロセス工学解析実習 F	4	TD1 以上		○
NB25301	プロセス工学技術創生実習 S	4	TD2 以上		○
NB25404	プロセス工学技術創生実習 F	4	TD2 以上		○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	PSD TED	PED
NB25501	創エネルギー解析実習 S	4	TD1 以上		○
NB25604	創エネルギー解析実習 F	4	TD1 以上		○
NB25701	創エネルギー工学技術創生実習 S	4	TD2 以上		○
NB25804	創エネルギー工学技術創生実習 F	4	TD2 以上		○
QB10021	触媒工学	2	TD3 以上	○	○
QB10034	触媒設計学	2	TD3 以上	○	○
QB10041	光機能材料	2	TD3 以上	○	○
QB10054	電気化学デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QB10061	機能高分子化学	2	TD3 以上	○	○
QB10084	有機電子移動化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB10095	セラミックス材料設計	1	TD3 以上	○	○
QB10105	粉体材料プロセス工学特論	1	TD3 以上	○	○
QB10151	錯体化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB10161	光物理化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB10204	固体化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20014	工業物質工学	2	TD3 以上	○	○
QB20021	材料電気化学	2	TD3 以上	○	○
QB20034	エネルギー化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20044	エネルギー機器材料学	2	TD3 以上	○	○
QB20051	エネルギーバリューチェーンシステム特論	2	TD3 以上	○	○
QB20061	エネルギー変換プロセス	2	TD3 以上	○	○
QB20074	エネルギー素材科学	2	TD3 以上	○	○
QB20081	物質環境エネルギー工学	2	TD3 以上	○	○
QB20091	反応装置工学	2	TD3 以上	○	○
QB20101	化学エネルギー工学	2	TD3 以上	○	○
QB20114	分離工学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20141	環境化学反応論	2	TD3 以上	○	○
QB20174	機能性材料科学特論	2	TD3 以上	○	○
QB25301	イノベーション化学プロセス実習 S	4	TD3 以上		○
QB25404	イノベーション化学プロセス実習 F	4	TD3 以上		○
QB25501	エネルギー先端創生実習 S	4	TD3 以上		○
QB25604	エネルギー先端創生実習 F	4	TD3 以上		○



<Ⅱ. 数物・電子情報系理工学専攻（電力系）>

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NC30014	エネルギーシステム論	2	TD1 以上	○	○
NC30024	信号理論	2	TD1 以上	○	○
NC30034	アドバンストディジタル通信	2	TD1 以上	○	○
NC30041	VLSI システム設計	2	TD1 以上	○	○
NC30054	先端エレクトロニクス製品アーキテクチャ講座	2	TD1 以上	○	○
NC30064	知能システム論	2	TD1 以上	○	○
NC30084	符号理論	2	TD1 以上	○	○
NC30091	ディジタル回路論	2	TD1 以上	○	○
NC30101	ナノフォトニクス	2	TD1 以上	○	○
NC30114	離散システム特論	2	TD1 以上	○	○
NC30121	フォトニクス理論	2	TD1 以上	○	○
NC30131	電力システム計画論	2	TD1 以上	○	○
NC30141	半導体工学特論	2	TD1 以上	○	○
NC30164	半導体光エレクトロニクス	2	TD1 以上	○	○
NC30171	情報通信インフラストラクチャ	2	TD1 以上	○	○
NC30184	マルチメディア移動通信	2	TD1 以上	○	○
NC30191	マイクロ波工学	2	TD1 以上	○	○
NC30204	フォールトトレラントシステム論	2	TD1 以上	○	○
NC30211	電磁気学特論	2	TD1 以上	○	○
NC30234	アナログ CMOS 集積回路	2	TD1 以上	○	○
NC30241	集積ナノデバイス特論	2	TD1 以上	○	○
NC30254	電子デバイス特論	2	TD1 以上	○	○
NC30261	情報通信による医工融合コロキウム	2	TD1 以上	○	○
NC30271	スマートグリッド論	2	TD1 以上	○	○
NC30281	超伝導エレクトロニクス	2	TD1 以上	○	○
NC30294	モバイルアンテナシステム測定	2	TD1 以上	○	○
NC30301	モーションコントロールシステム	2	TD1 以上	○	○
NC30314	人間システム工学	2	TD1 以上	○	○
NC35101	集積回路設計 S	4	TD1 以上		○
NC35204	集積回路設計 F	4	TD1 以上		○
NC35301	オープンソース学実習 S	4	TD1 以上		○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NC35404	オープンソース学実習 F	4	TD1 以上		○
NC35501	モーションコントロール S	4	TD1 以上		○
NC35604	モーションコントロール F	4	TD1 以上		○
NC35701	ナノエレクトロニクス S	4	TD1 以上		○
NC35804	ナノエレクトロニクス F	4	TD1 以上		○
NC35901	光波解析 S	4	TD1 以上		○
NC36004	光波解析 F	4	TD1 以上		○
NC36101	アンテナ設計・解析 S	4	TD1 以上		○
NC36204	アンテナ設計・解析 F	4	TD1 以上		○
NC36301	情報通信技術 S	4	TD1 以上		○
NC36404	情報通信技術 F	4	TD1 以上		○
NC36501	電気エネルギー供給 S	4	TD1 以上		○
NC36604	電気エネルギー供給 F	4	TD1 以上		○
NC36701	先端電子材料・エレクトロニクス S	4	TD1 以上		○
NC36804	先端電子材料・エレクトロニクス F	4	TD1 以上		○
NC36901	集積エレクトロニクス S	4	TD1 以上		○
NC37004	集積エレクトロニクス F	4	TD1 以上		○
NC37101	電子情報工学と未来医療・福祉 S	4	TD1 以上		○
NC37204	電子情報工学と未来医療・福祉 F	4	TD1 以上		○
NC37301	環境適応スマートシステム S	4	TD1 以上		○
NC37404	環境適応スマートシステム F	4	TD1 以上		○
NC37501	無線通信システム S	4	TD1 以上		○
NC37604	無線通信システム F	4	TD1 以上		○
NC37701	先端フォトニクス S	4	TD1 以上		○
NC37804	先端フォトニクス F	4	TD1 以上		○
NC37901	高度情報ネットワークシステム S	4	TD1 以上		○
NC38004	高度情報ネットワークシステム F	4	TD1 以上		○
QC30024	アンテナ伝播特論	2	TD3 以上		○
QC30031	オープンソース創造特論	2	TD3 以上		○
QC30041	システム制御情報特論	2	TD3 以上	○	○
QC30054	デジタル回路特論	2	TD3 以上	○	○
QC30064	データストレージ特論	2	TD3 以上	○	○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
QC30071	マイクロ波工学特論	2	TD3 以上	○	○
QC30084	マルチメディア移動通信特論	2	TD3 以上	○	
QC30094	メカトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30104	光量子エレクトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30114	集積ナノデバイス工学特論	2	TD3 以上	○	○
QC30121	情報理論特論	2	TD3 以上	○	○
QC30131	知能システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC30141	超伝導エレクトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30151	電力システム工学特論	2	TD3 以上	○	○
QC30164	電力系統保護システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC30174	半導体デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30181	符号理論特論	2	TD3 以上	○	○
QC30194	量子効果デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30201	量子集積デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30214	生体医工システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC30221	ナノフォトニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC35104	システム設計実習	4	TD3 以上		○
QC35204	システムデバイス実習	4	TD3 以上		○
QC35304	エネルギー・制御実習	4	TD3 以上		○
QC35404	医療情報システム実習	4	TD3 以上		○
QC35504	医療デバイス実習	4	TD3 以上		○
QC35604	医療メカトロニクス実習	4	TD3 以上		○
QC35704	医療生体システム実習	4	TD3 以上		○
QC35804	医工連携分野実習	4	TD3 以上		○

(3) 卓越俯瞰選択科目 (横浜国立大学大学院理工学府開講科目)

< I. 化学・生命系理工学専攻 (エネルギー・マテリアル系) >

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
N000011	理工学府 MPBL	2	TD1 以上	○	○
N000064	イノベーションと起業Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000071	プロジェクトマネジメントⅠ	2	TD1 以上	○	○
N000081	プロジェクトマネジメントⅡ	2	TD1 以上	○	○
N000121	グローバル企業における効果的な事業計画策定	2	TD1 以上	○	○
N000131	グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	2	TD1 以上	○	○
N000141	イノベーションと課題発見Ⅰ	2	TD1 以上	○	○
N000151	イノベーションと課題発見Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000161	標準化とビジネス	2	TD1 以上	○	○
N000171	神奈川県を取り組む技術課題	2	TD1 以上	○	○
N009811/ N009814	理工学府海外インターンシップ	2	TD1 以上	○	○
NB11601	化学 PSD 学外実習	2	TD1 以上	○	
NB12101	化学 TED 学外実習	2	TD1 以上	○	
NB21601	化学応用・バイオ学外実習	2	TD1 以上	○	
NB29821/ NB29824	化学応用・バイオインターンシップ M	2	TD1 以上		○

<Ⅱ. 数物・電子情報系理工学専攻（電力系）>

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
N000011	理工学府 MPBL	2	TD1 以上	○	○
N000064	イノベーションと起業Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000071	プロジェクトマネジメントⅠ	2	TD1 以上	○	○
N000081	プロジェクトマネジメントⅡ	2	TD1 以上	○	○
N000121	グローバル企業における効果的な事業計画策定	2	TD1 以上	○	○
N000131	グローバルスタンダードの次世代ビジネススキル	2	TD1 以上	○	○
N000141	イノベーションと課題発見Ⅰ	2	TD1 以上	○	○
N000151	イノベーションと課題発見Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000161	標準化とビジネス	2	TD1 以上	○	○
N000171	神奈川県を取り組む技術課題	2	TD1 以上	○	○
N009811/ N009814	理工学府海外インターンシップ	2	TD1 以上	○	○
NC31101	応用物理学学外研修	2	TD1 以上	○	
NC31201	情報システム学外研修	2	TD1 以上	○	
NC31301	電気電子ネットワーク学外研修	2	TD1 以上	○	

#### 4. 履修の特例

##### (1) 2018 年度進入 1 期生

2018 年度から TD1、TD2、TD3 生として本プログラムに参加することを認められた者の本プログラムの履修は 2019 年 4 月からとなるが、それぞれの進入者の進級要件・修了要件は以下のとおりとする。

2018 年度 学年	QE 審査要件	FE 審査要件
M1	<b>【2019 年度 TD2=QE 実施】</b> ・ 30 単位以上履修（卓越必修科目 3 単位以上、 専門選択科目 15 単位以上、任意（専門選択科 目または俯瞰選択科目）12 単位以上） ・ 国際学会論文、あるいは学術論文（投稿中含 む）1 報	<b>【特例なし】</b> ・ 45 単位以上履修 （卓越必修科目 10 単位、 専門選択科目 15 単位以上、 俯瞰選択科目 5 単位以上）
D1	<b>【2019 年度 TD4】</b> ・ 2018 年度に実施する選抜試験（SE）において QE 修了要件と同等の能力であることを確認 のうえ、進入を判定する	・ 国際学会等での原則、連携 機関との共著論文 1 報以上

##### (2) 2019 年 4 月進入 2 期生(TD3・社会人)

本編入者の修了要件は卓越必修科目 10 単位および卓越専門/俯瞰選択科目 5 単位の計 15 単位とする。

##### (3) プログラム進入前に修得した単位の取扱いについて

上記 4 (1)において、本プログラムに進入する以前に、本プログラム要項の「3. 学科目配当表」(2)および(3)に記載の科目を履修していた場合は、その単位は本プログラムの修得単位として算入されるものとする。

#### 5. 先取り履修について

本プログラムにコース進入する以前に、本プログラム要項の「3. 学科目配当表」(2)および(3)に記載の科目を履修していた場合は、その単位は本プログラムの修得単位として算入されるものとする。

### IV. 卓越 RA 費の受給

#### 1. 卓越 RA 制度

本プログラム生は連携機関や企業等との共同研究等に参画することにより研究代表者等である指導教員等から卓越 RA 費を受給することができる。（社会人編入者は対象外）

#### 2. 卓越 RA 費の受給

本学の規定に従い支給する。なお、以下の点に留意すること。

- ・ 本プログラム生は理工学府博士課程前期 2 年次に、理工学府特別研究員／特待生制度に必ず応募する必要がある。
- ・ 理工学府特別研究員／特待生制度の支給金額や、日本学術振興会特別研究員等の支給金額により、卓越 RA 費の支給金額を減額調整する。

## V. 早稲田大学での学籍番号

本属が早稲田大学以外の本プログラム生については、早稲田大学先進理工学研究科先進理工学専攻を受入箇所とする大学院交流学生としての学籍番号を定める。

## VI. その他

5年一貫制教育プログラムである本プログラムに進入した場合においても、理工学府博士課程前期の修了および博士課程後期への入学を保証するものではない。博士課程前期在籍者が博士課程後期に進学する際は、理工学府博士課程後期学生募集要項により、入学試験を受験し合格しなければならない。